溶接ニュース
2010年（平成22年）10月19日

ディーラーで先がけ採用

経営効率化の大きな武器に

浪速工業所

容器管理の大きな戦力として、日本産業・医療ガス協会（JIMGA）も本腰を入れ取り組んでいるRFタグ容器管理は、メーカーサイドでは、その普及に拍車をかけている。こうした環境下、広島県の中堅高圧ガス溶材商社である浪速工業所（呉市、三ヶ日直幸社長）は、全国のディーラーに先がけ、本年5月にRFタグ容器管理の実運用をスタートさせた。

◇

同社は造船や鉄工所などの顧客をメーンとし、売上の構成比は溶接材料40%、高圧ガス30%、その他は溶接機などで、「特に造船は、2～3年後には受注量の減少から当社にとっても厳しい状況が予想される」と語り、「より効率的な経営を目指す必要を痛感している」という。

それが、今回のRFタグ容器管理導入の大きな動機となっている。「容器管理はマニュアルで実施していた。限られた容器本数のため、バーコードシステムの導入も以前検討したことがあるが、数百万円のコストが必要となるため導入までに至らなかった」

しかし、「マニュアルの場合は効率面や、ヒューマンエラーによるミスも発生し、容器管理のコンピュータ化は懸案事項であったことは間違いない」と指摘。

次いで、「ちょうど高圧ガス容器を管理する岩谷情報システムのグランドコンピューティングシステムの説明を受け、既存のパソコンやインターネットがそのまま活用でき、セキュリティがしっかりしたデータセンターからインターネット経由で容器管理に必要なソフト、データベースの提供を受けることができ、ハンディターミナル（携帯情報端末、オプション、4台保有）を準備するだけで、月2万円の利用料で活用できると聞き導入を決めた」という。

「操作も簡単で、導入時の操作説明だけでなく、導入後に発生したイレギュラー処理や不明なことがあった時の対応も十分フォローもしていただき、セキュリティ・システムサポートへの対応も満足している」と話す。

「広島では岩谷瓦斯の広島工場もRFタグ容器管理の実運用が本格化し、その連動により容器管理もスムーズに行える。また、ソフトを活用すればどの顧客に、何本容器が延滞しているかリアルタイムで分かり、特に容器管理面ではシステム導入により大きな安心感も提供していただいた」ともいう。

「RFタグは未完成なイメージや初めてのことで不安もあり、導入をやめようかと思ったこともある。しかし、今は導入して本当によかったと感じている。これを機に販売管理システムの導入も早急に図り、より効率的な経営を目指したい」とコメントした。

ハンディターミナルで読みとり

容器管理情報も充実